（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ６ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立三郷工業技術高等学校 ）

目指す学校像	「ものづくりの精神」に基づき、豊かな人間性を育成するとともに、学力向上をとおして、生徒の自信を高め、地域に貢献できる技術者を育成する」

重　点　目　標	１　基礎学力や専門知識・技術の習得を重視し、学習指導を充実させる ２　生徒指導及び進路指導の充実を図り、社会人基礎力を身につけさせる ３　開かれた学校づくりに取り組み、工業高校の魅力を積極的に発信する

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	６名
	生徒	６名
	事務局（教職員）	８名

学　校　自　己　評　価

年　度　目　標　／　年度評価（１月１６日　現在）

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 教科指導において、「わかる授業の実践」を進めた結果、多くの生徒が授業内容を理解している。 【課題】 基礎学力が身に付いていない生徒が多く入学している。引き続き家庭での学習習慣をつけさせる指導と、基礎学力の向上、専門知識と技術の確実な習得を行い、生徒の自信を高める必要がある。	①授業改善と指導力向上により、生徒の学習意欲を向上させる。	①ＩＣＴを活用した授業や学力向上を促す取り組みを積極的に行う。	①教科・学科の横断的な学びを実施することで生徒の学力向上が見られ、同時に生徒の授業への積極参加が見られたか。 ②一人一台端末の積極活用がされたか。	新学習指導要領改訂３年目となり能動的な授業も多く行われており生徒の授業への積極参加が見られる。端末活用も積極的に行われ、公開授業を通して教員の研修機会を確保している。専門教科の内容充実に検討の余地がある。 ①教科内に限らず、教科間の情報共有を行うことで生徒一人一人に対して適切な指導を行えている。一人一台端末の公開授業を 27 回行うことで活用が促された。 ②専門科目の「内容を理解できた」という割合は、M72.6%、R79.3%、E75.4%、T73.4%、C72%、全 74.3%（昨年度M75.5%、R70.9%、E73.6%、T74.1%、C82.6%、全 75.8%）、課題研究の満足度M95.8%、R100%、E96.1%、T88.6%、C73.5%、全88.9%（同 81.4%）。 資格やコンテスト参加への意欲は高い。 ①「資格を取得したい」83.5%（同 83.3%）、「積極的に取り組んだ」47.1%（同 54.4%）。新たに取得した生徒数 267 人（１年 144 人、２年 86 人、３年 37 人）内国家資格取得数３６名（昨年度１年 161 人、２年 87 人、３年 37 人全 285 人）1、２年生の取得率 72.8%（同 75.2%） ②「資格指導が充実している」 79.5%（同 77.0%）	B	一人一台端末やＩＣＴ授業を行う教員は多い。授業方法について模索が続いている。公開授業を行うことで、教員同士の学びの場を増やし情報共有を引続き行っていく。義務教育現場を含め外部への見学も行いたい。 学習指導が難しい生徒も増えている。専門高校として知識・技術を身につける指導を継続的に行っていく。
		②資格取得や、各種コンテスト、大会への積極参加。	①配信メールの活用を含め、積極的な情報提供。	①資格取得やコンテストなどに取り組む生徒が多くいたか。			
			②資格取得の指導。	①アンケートにおいて、資格指導が充実しているとの回答が８０％以上か。			
2	【現状】 生徒規範は守られている。大きな問題行動は見られない。進路指導も充実し、生徒の進路実現が達成されている。 【課題】 引き続き、社会人基礎力の育成を目指し、組織的な生徒指導、進路指導を通し、集団の一員としての自覚と責任を高め、進路実現につなげる必要がある。	①社会人基礎力の育成を目指す生徒指導の推進。	①生徒の「セルフマネジメント能力」を高める生徒指導の推進。	①基本的生活習慣の確立、特に遅刻者数が減少したか。 ②手帳を使った自己管理ができたか。	社会人基礎力を目指す生徒指導や安全教育は積極的に行われた。ただし遅刻者数が増加へ転じている。年度当初は、１年生の自転車での軽微な事故が例年より多かった。 ①遅刻者数は１、２学期合計 806 人（昨年度 728 件）「自己管理能力が高まった」の割合は 89.2%（同 79.3%） ②１年生への自転車安全指導伝達講習会を実施。ヘルメットの着用を呼びかけている。 今年度はコース別に制度変更した完成年度である。生徒の進路実現へ向けた取り組みが行えている。 ①２、３年生の「コース選択満足度」全体 92.6%、大学コース 85.4%。 ②「自分の進路や人生について考える指導が十分に行われていたと思うか」90.2%、「進路指導は十分に行われている」91.7%（同 89.5%）各学年において、適切な進路ガイダンスを実施。情報電子科ではインターンシップを実施。県「多様な働き方実践企業」職場体験ツアーへの参加を全生徒へ促した。その他企業見学や施設見学を実施。	B	手帳を使った自己管理を進めている。社会人基礎力を身につけさせる指導は継続して行う。基本的生活習慣の改善は各家庭の協力が欠かせない。 変化が激しい時代を生き抜くため、自らが考え、判断し行動できることが大切である。多様な社会に対応できる能力を育成する指導は今後も大切である。
			②自転車安全講習会を実施、ヘルメットの着用を呼びかける。	①講習会を実施できたか。安全指導を適切に行えたか。			
		②生徒の進路実現へ向けた指導。	①大学コース、専門コースにおいて、特性を生かした指導を行う。	①コース選択の満足度が高い値を示したか。		A	
			②三年間を見通したキャリア教育の実施。	①生徒自らの力で人生を考えることができるキャリア教育が行われたか。 ②インターンシップの積極参加が行われたか。			
3	【現状】 本校の魅力を発信しきれていない。募集定員が割れている学科が多くある。 【課題】 本校の特色・魅力・成果を積極的に情報発信する機会を増やす必要がある。 外部連携を行いつつ、開かれた学校づくりに取り組む。	①積極的に情報発信し説明会等を充実させ、志願者を増加させる。	①本校の特色・魅力・成果について積極的に情報を発信し生徒募集につなげる。	①情報発信の機会を多く設ける。 ②生徒募集において、各科志願倍率 1.0 倍を確保する。	インスタグラムを開始し日頃の生徒の様子を配信した。配信アプリの積極活用を行えた。 ①ホームページの更新回数は 274 回（12/27 現在）（昨年度 199 回）、１月 12 日現在の志願倍率M科 0.72、R科 0.38、E科 0.87、T科 0.75、C科 0.70 倍（昨年度M科 0.77、R科 0.43、E科 0.64、T科 0.65、C科 0.98 倍）各科１倍を下回っている。 ②中学校への出前授業を２回、彦成中まるごと体験、立花小との連携授業など実施。学校説明会、学科説明会、体験部活動、体験授業を実施し、延べ 965 人（内中学生 516 人）が参加した。（同 888 人内中学生 468 人）、中学校訪問近隣約 30 校へ実施。中学校主催の説明会２校へ参加。 地域や、小中学校など連携は概ね達成できた。 ①三郷市、三郷市教育委員会と連携し、年次研修の実施や、「GIGA プロジェクト」へ教員の派遣ができた。また、NPO 三郷や IKEA 新三郷店と連携し、地域の子供たち向けのイベントを実施した。県教委が連携協定を締結している埼玉経済 6 団体や、埼玉新聞事業社、Nack5&アクサ生命、城西大学、東洋大学、日本工業大学とイベントや課題研究等の指導支援、共同で授業するなど、外部機関の活用を行った。	B	生徒アンケートより「本校を知るきっかけ」は１中学校の先生 45.5%２保護者 38.3%３ネット検索 24.3%「受験校選択時ＨＰを参考にした」67.1%である。引続き情報発信の強化が必要である。 生徒の育成には外部連携が欠かせない。引続き行っていく。
			②各種説明会や学校見学会、出前授業、体験入学等をとおしたＰＲ活動の実施。	①地元小中学校との連携回数の増加 ②本校で行う各種広報行事における参加者数増加。			
		②企業や地域、小中学校、各種機関等との連携強化。	①外部連携を積極的に行い、開かれた学校づくりを行う。	①様々な機会を捉え外部連携を行うことができたか。		B	

学　校　関　係　者　評　価

実施日　令和７年１月２４日

学校関係者からの意見・要望・評価等

・技能検定はじめ多く資格受験料が高額である。何らかの支援が必要。
・英検準２級取得は高校卒業の指標となる。
・資格指導は特定の教員への負担となることが懸念される。
・一人一台タブレット端末は、簡単に調べられること、データを無くさないなどメリットがある。しかし紙へ書き込むことも重要であり、書くことで覚えやすい。
・保護者として、配信メールで情報がされていることに感謝している。
・欠席連絡を配信メールで出来ないか。

・インターンシップなど企業体験について三郷市商工会もできる限りの相談に応じたい。学校、企業ともにメリットがあると良い。
・自己管理能力向上で、中学でも手帳を使った活動が行われ始めている。
・８時３０分登校は意識の習慣化ができる。就職したときを考えると高校生の内に身につけられることは良い。
・進路行事は、多くの企業から話が聞けて、三工技は手厚い指導が行われている。ただ、大学については少ないので多くした方が良い。
・就職者が多いためか、スーツ着こなし、化粧講座などの行事があり、とても良い。
・子ども自身が進路を考える機会が多くて良い。少しずつ社会人へ成長している。
・身だしなみ指導など、学年が上がるにつれ優しくなった。身だしなみの基準から本人の努力を見るようになった。
・スマホ使用など現在の校則を緩めると、規範意識が悪化することが懸念され余計に規制されるのではないかと感じる。

・夏季休業中に高校が行っている体験授業より、まるごと体験は生徒へ好評であり、志願者が増える。小中教員向け進路指導見学会を行った際も、三工技の授業や施設に驚いていた。実際に体験することや見ることは効果がある。小中学校との連携は必要である。
・ららぽーと新三郷に三郷市観光協会が情報発信している場所がある。そこの活用も良い。
・高校生はインスタをあまり見ないが、保護者は学校の様子が分かってよい。
・三工技は学科の違いがよくわからない。似たような内容であり差別化が図られていない。受検生も迷うと思う。